

平成27年度
自己点検・評価報告書
(抜 粋)

鎌倉女子大学 初等部

1. 教育目標

1-①	<ul style="list-style-type: none"> ・設置者の示す明確な教育方針（建学の精神）等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自立と共生の未来社会を志高く、夢と希望をもって「感謝」と「奉仕」に生きる人づくり。 ・「豊かな心」と「確かな学力」、「健やかなからだ」を身に付けた品位ある児童を育成する。 ・自主自発的で創造的な児童を育成する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の教科指導はもとより、修養の鐘や修養日誌、校門での一礼指導を通して、「感謝」と「奉仕」の心の形成に努め、教育目標の実現に取り組んだ。 ・「ぞうきんと辞書をもって学ぶ心」の形成を学習指導の指針として、また、「人・物・時を大切に作る心」の形成を生活指導の指針として、学校生活の全般を通して教育目標の実現に取り組んだ。 ・月曜朝会での講話や月訓掲示による月訓の励行を繰り返し指導し、初等部の三心である「感謝と奉仕に生きる心」と「ぞうきんをもって学ぶ心」、「人・時・物を大切に作る心」の形成に継続的に取り組んだ。 ・異学年で活動する課外・課内クラブや委員会活動、異学年で出かける春の遠足や異学年で取り組む運動会の合同演技など、異学年での交流機会を多くし、上級生へのあこがれや感謝の気持ち、下級生への労わりや奉仕の気持ちを育む教育活動に取り組んだ。 ・全学年において、日々の授業の始めと終わりで、「お願いします」、「ありがとうございます」の挨拶が言えた。 ・低学年を中心にバスの乗り降りの際にも、「お願いします」、「ありがとうございます」の挨拶が言える児童が増えてきた。 ・学芸会や音楽会、運動会、みどり祭など、各行事において高学年児童のリーダーシップが見て取れ、下級生から慕われる高学年児童が増えてきた。 ・高学年に進むにつれ、学習者主体の伝え合いと認め合いの課題（問題）解決学習が行われるようになり、学び合いを通して共に成長しようとする姿が見られるようになった。 ・児童代表委員会の活動が活発になり、「児童委員会活動だより」が校舎内に月ごとに年間を通して掲示されたり、児童発案による課外合唱クラブが誕生したりした。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神のもとに構築した不易不変の教育理念及び教育目標にもとづき、初等部の「学校観」と「児童観」を共有し、初等部の人間形成過程と成長発達過程を具現化していく。 ・初等部の学力観とともに、指導観と評価観の明確化と共有化を図り、新学習指導要領に準拠した教育課程の編成と運営、改善への具体的取組を検討していく。 ・初等部の経営と運営についての基本的事項と方針を明示した「初等部経営計画」を作成し、組織化と効率化を図る。

1-②	・学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が定められているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高度情報化を背景に知識基盤社会が到来し、グローバル化が進む未来社会を志高く、夢と希望とともに、「豊かな心」と「確かな学力」、「健やかなからだ」を身に付けた品位ある子どもたちの育成に努める。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校運営」「学習指導」「児童指導の充実」「人材育成と教師力の向上」「募集力の向上」「進路進学指導」「学校防犯・防災」「学校安全・健康衛生」「その他」の9項目について、重点取組目標を設定し、平成27年度～平成31年度の中期目標を定めている。 ・学校運営に関しては、建学の精神のもと、年度初めに「初等部経営計画」と「初等部の教育」を策定し、教育ビジョンの明確化と具現化、共有化を図り、特色ある教育活動の創造に取り組んだ。 ・「継承と発展」、「充実と向上」、「組織化と効率化」をテーマにPDCAサイクルの確立と関係者評価の充実を図り、初等部経営と運営の改善に取り組んだ。 ・「初等部経営計画」（学校経営全体計画）と「初等部の教育」を作成し、経営ビジョンを明確にすることができた。 ・「学習指導」の取組状況については、2. 教育課程及び3. 学習指導で示す。 ・「児童指導の充実」の取組状況については、5. 生徒指導で示す。 ・「人材育成と教師力の向上」の取組状況については、8. 組織運営及び9. 研修（資質向上の取組）で示す。 ・「募集力の向上」の取組状況については、11. 入試・広報活動（情報提供）で示す。 ・「進路進学指導」の取組状況については、4. キャリア教育（進路指導）で示す。 ・「学校防犯・防災」の取組状況については、7. 安全管理で示す。 ・「学校安全・健康衛生」の取組状況については、6. 保健管理で示す。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議及び拡大運営推進委員会を充実させ、初等部の計画立案機能の強化を図る。 ・部内及び関係者評価の充実を図り、初等部の組織化と効率化を図る。

2. 教育課程

2-①	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成が適正かどうかを精査する。 教育課程編成の基本方針を、教職員に周知する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 3部会特別委員会の一つに教育課程運営委員会を設け、教育課程の編成と運営、改善に取り組んだ。 平成26年度より2年計画で教育課程の編成を精査し、加筆修正した。 教育課程運営委員会を通じて、教職員全員に周知した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 来たる新学習指導要領大改訂に向けての、初等部としての考え方を策定していく。 教育課程の編成の精査内容について、学年によって差異のないように検討していく。

2-②	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の実施に必要な、各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画や週案などが適切に作成されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画（紙ベース）と実際に行っている授業（実績）が、教科の目標等、どれだけの整合性がとれているのかどうかを精査する。 ・週案を作成することにより、授業者が各自で授業時数の管理を計画的に行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・週案は、ほぼ全員の教職員が毎週の授業実施に向けて作成・振り返りを行い、授業時数の管理と共に進めてきた。 ・年間指導計画は、作成及び加筆修正を進めてきた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・週案については、全員が作成する。 ・年間指導計画、単元別指導計画を整備していく。 ・学年別に年間指導計画と単元別指導計画を一綴りにし、一目で見やすく分かりやすい紙ベースのものを作成する必要がある。 ・礼法学習を、教科内にどう位置づけるか検討していく。

2-③	<ul style="list-style-type: none"> 必要な教科等の指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 学則に基づく授業時数が、各学年で計画的に実施できているかどうか確認し、大幅なズレが生じている場合は、それを解消する手立てを講じる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の実際の授業時数をもとに算出すると、おおよそ次のとおりである。 (学則の初等部教育課程で定められた時数との差、過不足割合) 1学年：生活 (-35、-34.3%)、フリースクール (-3、-60%) 2学年：生活 (-24、-22.9%)、学活 (-13、-34.2%) 3学年：道徳 (-8、-21.1%)、総合 (-15、-26.3%)、学活 (+22、+57.9%) 4学年：道徳 (-8、-21.1%) 5学年：道徳 (-13、-34.2%)、学活 (+12、+31.6%) 6学年：算数 (-39、-20.5%)、英語 (-9、-24.3%)、総合 (-19、-35.8%)、 パソコン (-7、-41.2%) 教科ごとの年間授業時数と比較して、「国語」や「算数」は時数が多いため、おおむね一割程度の範囲での過不足で収まっているが、他の教科は、既出の教科と比べると年間授業時数が少ないため、過不足の割合が極端に大きくなっている。特に週一時間しか設定されていない教科や月曜日に授業設定されている教科の時数不足が目立つ。 文部科学省が定める年間授業時数はクリアしている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じた授業実施にあたり教科ごとの偏りについて留意するよう、大きく呼びかける必要がある。 学年主任を中心とした学習予定表の作成を通して、バランスの良い学習計画の遂行を留意する必要がある。また、定期的に教務担当がチェックしていくことも視野に入れ検討している。 教科ごとの指導内容が適正であるかどうかについては、現在部内全体で精力的に取り組んでいる作業にも関係してくる事項であり、平成28年度末の状況を見て今後の方向性を判断したい。

2-④	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習について観点別学習状況の評価や評定などの基準が設定されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成が適正かどうか、精査する。 ・年間指導計画（紙ベース）と実際に行っている授業（実績）が、教科の目標等、どれだけの整合性が取れているのかどうかを精査する。 ・単元別指導計画の加筆修正を行い、授業内容を平準化する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領及び初等部学則に示された授業時数をもとに、年間指導計画・単元別指導計画を策定し、教育課程の編成と教育活動を実施した。 ・教科ごとの年間指導計画及び単元別指導計画には、目標が設定されており、それに基づいて学習活動を実施している。 ・昨年度同様に平成27年度は、今ある「初等部年間指導計画」「単元別指導計画」が、実際に行われている授業とどれだけ整合性が取れているか、加筆修正を行ってきた。 ・評価担当者を置き、指導と評価の一体化とともに、「あゆみ」の電子化を図り、妥当性と信頼性のある「あゆみ」の作成に取り組んだ。 ・学力観を確立し、指導観と評価観の具現化に取り組んだ。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「初等部スタンダード」的なものを位置付け、指導者によって扱いが変わらないような指導計画を作成していく。 ・指導計画を教科ごとに設定し、評価基準と評価規準が設定してあるが、指導者によって異なる解釈が可能なものもある。そのため、どの教員がどの学年を指導しても、大差がないような仕組みの構築をしていく。

3. 学習指導

3-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領や設置者が定める基準（学則）にのっとり、学校全体として、児童の発達段階や学力、能力に即した指導が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階や学力、能力に即した指導を実施する。 ・初等部の目指す児童観に沿った指導を実施する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部の学則は、文部科学省が定める小学校学習指導要領の標準時数を超えた設定をしている。 ・各教科、領域の「年間指導計画」「単元別指導計画」を基に、学習指導を実施している。 ・毎年4月に実施している「全国学力・学習状況調査」（6年生対象、文部科学省）や、毎年3月に実施している「標準学力検査NRT」（1～5年生対象、図書文化）の結果を、児童や保護者にフィードバックし指導に活用している。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、領域の「年間指導計画」「単元別指導計画」は、見直しの時期に来ている。また、来たる平成30年度の小学校学習指導要領の改訂に向けて、内容の吟味・精選を行う必要がある。 ・「全国学力・学習状況調査」や「標準学力検査NRT」は、個人レベルでは活用できている面があるが、学年全体または学校全体としては活用途上である。データの扱い方を構築し、有効活用することで指導にも活かすことが可能になると考えられる。その仕組みづくりを行っていく。 ・改訂学習指導要領の情報を集め、平成32年度を目途に新しいカリキュラム編成に向けた体制と工程づくりが課題である。

3-②	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた取組が行われ、P D C A サイクルに基づいて適切に改善されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「健やかなからだ」と「確かな学力」を育むため、児童自らが目標を持ち、日ごろの学習の成果を発揮するための機会とする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・数学検定や漢字検定等「7つのチャレンジ」のチャレンジ意欲の高揚に取り組んだ。 ・「健やかなからだ」を育むため、泳力検定、なわとび検定を実施している。 ・泳力検定は、9月の水泳の授業内で実施している。全学年対象に18段階に分かれた検定に取り組んでいる。 ・なわとび検定は、2月の体育の授業内で実施している。全学年対象に20段階に分かれた検定に取り組んでいる。 ・「確かな学力」を育むため、英語検定（英検Jr.）、漢字検定、数学検定、パソコン検定、書き方検定に取り組んでいる。 ・英語検定は、10月、1月、年2回実施し、英語講習を受講している4年生以上の希望者が5級を受検している。英検Jr.は、11月、2月、年2回実施し、全学年対象に希望者が、Bronze、Silver、Goldの階級を受検している。 ・6年時における実用英語検定5級以上の級取得者と児童英検Gold級取得者の合計割合が、50%を越えるように取り組んだ。 ・漢字検定は、7月、1月、年2回実施し、全学年対象に希望者が受検している。 ・数学検定は、6月、11月、2月、年3回実施し、全学年対象に希望者が受検している。 ・パソコン検定は、2月のパソコンの授業内で実施し、4年生以上全員が受検している。4年生はブロンズ、5年生はシルバー、6年生はゴールドの課題に取り組み、A、B、Cの評価を受けている。 ・平成27年度より、神奈川県書写能力検定委員会による書き方検定が実施されなくなったため、日本書写技能検定による硬筆書写技能検定へ変更した。難易度の関係から4年生以上の希望制とした。1月に行い、5級を14名の児童が受検した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部独自で行っている検定に関しては、検定内容を精査していくとともに、授業内や休み時間などを利用し、児童が目標をもって練習に取り組める場を確保していくようにする。 ・実施する時期を分散させるなど、年間を通して児童がバランス良く挑戦できるようにしていく必要がある。 ・希望者を募る検定に関しては、校内掲示などを利用して周知を図り、受検者を確保していく。

3-③	<ul style="list-style-type: none"> ・発問、板書、指名など、各教員の指導性が各教科の授業において適切に発揮されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業、個人研修を通して、授業改善に取り組み、授業の基礎を学ぶ。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度は、6回の研究授業と3回の個人研修を行った。 ・研究授業の協議会では、視点に沿って、話し合いをした。鼎談を取り入れることによって、発言する機会が増え、活発な議論ができた。 ・細かい授業の課題については、ビューポイントシートに記入することにし、個人的に助言するように努めた。 ・板書計画ができていない授業が多かった。また、発問・指示が不明瞭な授業はほとんどなかった。 ・主体的に児童が学び合うには、聞く力、話す力、話し合う力を高めていくことの大切さが共通理解できた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも研究授業、個人研修授業を通して、授業の基本を助言し合える関係・雰囲気を整えていきたい。 ・学び合いの授業、子どもが主体の授業を創っていくためには、教師主導の授業からの脱却が必要であるが、教師の発問、指示、氏名、板書等の基礎は、不変であると考え。これからも必要があれば話題にし、助言し、高め合っていきたい。

3-④	・視聴覚教材や教育機器、コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業が行われているか。
取組目標	・授業中に書画カメラや電子黒板を活用し、学習者同士の伝え合いと学び合いの授業を促進するとともに、学力の定着と向上につなげていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に書画カメラや電子黒板を活用するといった教育活動を行った。その結果、1日1～2時間の頻度で活用している教員数が7割程度となった。 ・書画カメラの活用の仕方では、資料の写真や絵図などを拡大したり、児童のノートやプリントの記述を拡大表示したりすることが多かった。 ・電子黒板の活用の仕方では、書画カメラと接続して授業で活用したり、パソコンと接続して活用したりすることが多かった。 ・学習者同士の伝え合いと学び合いの授業を促進できたと考える教員数が8割を超えた。 ・学力の定着と向上につなげることができたと考える教員数が9割を超えた。
今後の課題 と改善策	・授業中に書画カメラや電子黒板の活用を進め、1日1～2時間の頻度で活用している教員数が7割程度おり、学習者同士の伝え合いと学び合いの授業を進め、促進できたと考える教員数が8割といった成果がでているため、今後も更に書画カメラや電子黒板の活用を進めていく。また、活用機会を増やしていく。

3-⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の計画的利用や、読書活動の推進に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・週に1回司書教諭による「読書」の授業を行い、図書館の計画的・積極的利用並びに読書活動の推進に努める。 ・調べ学習に必要な環境を整備し、情報発信センターとしての役割を果たし、図書館を上手に活用する。 ・図書委員会の児童による働きかけで、休み時間の図書館利用率を上げる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「読書」の年間カリキュラムに基づき、図書館を利用して発達段階に応じた内容で授業を行い、読書活動の推進に努めることができた。 ・OPAC検索専用端末や、タブレット型パソコンを10台整備し、調べ学習の効率化を図った。 ・OPAC検索についての学習は、「読書」の授業で行い、グループ、個人とスタイルを変えながら、積極的に調べ学習を推進した。 ・図書委員会の児童によるユニークな企画で、図書館や本に関する関心を高め、初等部の児童の休み時間の図書館利用率が上がった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館間の連携を図り、学校図書館に留まらず多種多様な図書館について知る機会を作り、さらなる図書館の計画的・積極的利用並びに読書活動の推進に努めたい。 ・週に1回の「読書」の授業内で調べ学習をまとめるには、深みや広がりがないこともあるため、図書館が調べ学習の力になることを知り得た後の部分を、他教科と連携を図りながら進めていきたい。 ・委員会活動は児童中心で進めてくことが理想的なため、もう少し企画・立案が形になるよう活動をサポートしていきたい。

3-⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習や問題解決的な学習、児童の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよしグループ活動を通して、上級生としての自覚をもつ。また、児童の自発的な関わりを増やす。 ・建学の精神を意識して、奉仕活動を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよしグループ活動では、オリエンテーリングを行った。リーダーとなった上級生が、下級生に適切な指示を出すなど、上級生としての自覚を持つことができた。 ・下級生も、なかよしグループ活動において、自分の役割をこなそうと努め、交流を深めることができた。また、下級生は普段かかわることの少ない上級生との交流の場として機能し、活動後にも同じグループの児童と交流することができた。 ・フリースタイルでは、校舎内外の清掃を行った。建学の精神にあるように、「感謝と奉仕の心」を持って、心を込めて取り組むことができた。 ・ICT機器を活用した「伝え合いと認め合い」重視の課題（問題）解決学習の創造に取り組んだ。 ・児童の自主自発的で創造的な学習活動を生み出し、学習内容の理解を深め、技能の定着を図るとともに、思考力や判断力、表現力、課題（問題）解決力や設定力、学ぶ意欲をもった児童の育成に取り組んだ。 ・平成27年度より位置づけられた研究研修主任を核にして、年間6回の全体授業研究会を開き、学習者主体の「伝え合いと認め合い」の課題（問題）解決的学習が少しずつ定着してきた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度のオリエンテーリングのように、なかよしグループで共通の活動・課題に取り組む機会を増やしていきたい。 ・フリースタイルでは、決められた場所の清掃だけでなく、自分たちで奉仕活動について考え行動する機会をつくっていきたい。

3-⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、体験活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神を根幹とした上で、児童の自主的な創意工夫も取り入れながら、バランスのとれた学習内容が図られた教育活動として学校行事を実施する。 ・学校行事を通して、初等部の教育理念を根幹とした「知・徳・体」の能力を総合的に育成するための内容となるように取り組む。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式・卒業式では、初等部生として迎え、そして初等部から送るための儀式的行事であり、ともに厳粛な式典であるとともに、学校全体で温かな気持ちをもって取り組み、実施することができた。 ・みどり祭・学芸会・音楽会は、学習発表を中心とする文化的行事であり、児童の自主自発性を取り入れた表現力の育成と、鑑賞能力の向上とが一体となり、精神を豊かに修養する体験の積み重ねを担っていく活動となった。 ・春の遠足では、1・6年生、2・4年生、3・5年生といった異学年の組み合わせで各目的地へ行き、現地で自然や文化とふれ合うなかで、お互いの交流を深める内容となっている。また、10月には1・2年生が遠足、3～5年生が鎌倉めぐりを行い、自然や歴史文化にふれるなかで「知・徳・体」の能力を育むことができた。 ・運動会では、赤白の組に分かれ、学年ごとが日ごろの体育授業で培った力を競技や演技で表現できた。また、応援団の結成から練習、当日の活動をも含め、児童は精一杯の努力を発揮することができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度の岩瀬キャンパスみどり祭は、中・高等部と別時期での開催となり、内容の変化に影響もあったが、幼稚部との同時開催として、6年生児童のボランティア活動を活性化させることができた。今後は更に検討を重ねて、児童が更にかかわることのできるものを目指していきたい。 ・校外宿泊体験学習における実施時期は、猛暑の夏季を避け、気候的に安定した時期と環境のもとで活動を行うことができた。ただし、目的地の選定には検討を重ねる必要がある。

3-⑧	・児童会活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。
取組目標	・1年生を迎える会、スポーツ集会、6年生を送る会を実施する。
取組内容 と成果	・例年行われている内容に加えて、6年生を送る会では、6年生一人ひとりが注目されるよう入場の仕方を変更し、とても高い評価を得た。
今後の課題 と改善策	・各児童会活動の充実を図るため、企画立案を年間計画として年度始めに行っておく。

3-⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動など教育課程外の活動が、適切な管理体制の下に積極的に実施されているか。 ・部活動が、教職員全体の協力体制の下で実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい人間関係を形成し、個性の伸長を図り、集団の一員として協力してより良いクラブづくりに参画しようとする自主的、実践的な態度を育てるために、クラブ活動を積極的に実施する。 ・クラブ活動が適切に運営できるよう全教職員で取り組む。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・課内クラブでは、4年生から6年生の児童が全員参加できるよう全教職員が12のクラブの担当を分かれて指導にあたり、適切に運営することができた。 ・課外クラブでは、1年生から6年生の児童から希望者を募り、全教職員が7つのクラブに分かれて担当し、朝、放課後の練習や、校外でのコンクール・大会等で、適切に運営することができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・課内・課外両クラブにおいて、年度によって、クラブ希望者数などが変化するため、安全管理や技術指導等配慮して、全教職員で取り組めるよう、適切な人数配置等を検討する。 ・全教職員で指導にあたるため、安全管理や児童の興味関心等により、クラブ数においても検討を重ねる。

3-⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導や習熟度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導や習熟度に応じた指導を行い、基礎基本の定着を図るとともに、補充的な学習や発展的な学習を通して、思考力・表現力・判断力の育成を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の教員が、高い専門性を生かし、確かな学力を身につけさせるために授業を工夫することができた。 ・算数科では、5年生において、自己申告制による習熟度のグループ分けを弾力的に行い、一人ひとりの理解に合わせた指導ができた。 ・グループでの学び合いを取り入れることで、分かる子、分からない子のどちらも伸びる、個に応じた指導ができた。 ・理科の実験や野外での観察においては、複数の教員で指導にあたることで安全を確保するとともに、技能に関する個別指導の充実を図ることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じた学習指導やグループでの教え合い・学び合いを中心にした学習指導をよりいっそう広げていきたい。 ・トピック単元やオリジナル教材などを積極的に活用し、思考力・表現力・判断力を伸ばしていきたい。

3-⑪	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム・ティーチング指導などにおいて、教員間で適切な役割分担がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部教育目標に従い、第1学年児童の「安心した学び」「楽しい学び」「確かな学び」の充実を図る。 ・チーム・ティーチングの指導において、教員の役割分担を明確にし、一人ひとりの児童に適切な指導・支援を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年の「安心した学び」「楽しい学び」「確かな学び」の充実を図るため、次の内容に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ①導入で児童の興味・関心を高めるため、アニメーション化したパワーポイントや実物投影機等の効果的なICT活用を積極的に取り入れ、前時の振り返りや本時の課題把握をすることで、児童の思考の流れを大切にしたい学びを行うことができた。 ②ペアやグループなど児童同士のかかわり合う場面を多く設定しながら学習することで、児童の思考力・表現力を育む学びを行うことができた。 ・チーム・ティーチングの指導において、教員の役割分担を明確にし、一人ひとりの児童に適切な指導・支援を行うため、国語の読み取りや算数の自力解決において、半分ずつの児童をそれぞれが担当することで、くまなく指導したり個に応じた支援をしたりすることができた。また、T1（発問・指名）T2（板書・ノート指導）という役割を事前に打ち合わせするなど、指導教科に応じて様々なスタイルを取り入れながら指導をした。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なICT活用を積極的に取り入れ、前時の振り返りや本時の課題把握をすることで、児童の思考の流れを大切にしたい学びを行うことができている。今後も、既習事項を生かして学習するというスパイラルな指導が行えるようにしていく。 ・ペアやグループなど児童同士のかかわり合う場面を多く設定してきたため、今後も、児童の思考力・表現力を育む学びが行えるよう、児童一人ひとりの語彙を増やしたりスピーチ力を高めたりできるような指導をしていく。 ・チーム・ティーチングの様々なスタイルを試みることでできたため、今後も、「安心した学び」「楽しい学び」「確かな学び」の充実を目指して、より良い指導・支援の方法を検証していきたい。

3-⑫	<ul style="list-style-type: none"> ・併設校 3 部の連携・協力のための取組がなされているか。 ・幼小連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。 ・小中連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。 ・高等部との連携に関する取組がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚部、初等部、中・高等部の3部の情報共有に努める。 ○併設幼稚部との連携と協働を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童と園児の交流活動を促進する。 ・初等部と幼稚部の教職員交流会を年間2回程度開催する。 ・初等部だよりやポスターを用いて、初等部情報を幼稚部保護者に届けていく。 ○併設中・高等部との連携と協働を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・中等部の内部進学について、中等部長や入試担当者から説明を受け、共通理解を図る。 ・内部進学説明会の回数や持ち方を工夫する。 ・初等部の進路指導主任と中等部の入試広報主任等と定期的に連絡を取り合い、特に内部進学について遺漏のないようにする。 ・中等部への内部進学を促進する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、計3回、幼稚部生と1年生とで交流を行った。その結果、1年生の年下に優しく接する意識が高まった。 ・初等部と幼稚部との職員合同研修会を行った。その結果、幼稚部の取組への理解が深まった。 ・幼稚部との連携のもと、児童と園児及び教員間においても交流促進を図り、幼稚部と初等部の一貫教育の実現と内部進学の促進に取り組んだ。 ・中等部との連携のもと、内部進学説明会の持ち方を検討するとともに、英語を含む講習活動の推進を図り、中等部への内部進学者数の増加に取り組んだ。 ・内部進学説明会を4月と1月の2回実施し、低学年時から中等部の教育への関心を持ってもらえるようにした。 ・初等部の6年生を対象に、中等部で理科の合同授業を実施できた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部カリキュラムをより理解し、初等部での教育活動により活かしていく。 ・幼稚部から初等部への併願制度の導入でこの2年間急減している内部進学を増やしていく。 ・初等部女子児童対象の中等部の内部進学説明会の回数を増やしていく。 ・初等部教員が中等部の授業公開を見学する。 ・女子児童数対する内部進学の割合を上げるため、中等部との連携を図り、改善への取組を検討する。

3-⑬	<ul style="list-style-type: none"> ・大学（鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院・鎌倉女子大学短期大学部）との連携に関する取組がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部が取り組んでいる研究・研修などに、大学の教員から専門的な指導を受けるようにする。 ・授業研究会の講師として大学の教員を招聘する。 ・通年の教育ボランティアを募集する。 ・初等部の5年児童が大船キャンパスに行き、大学の教員から話を聞く。 ・大学生、大学院生の初等部への訪問、授業参観を通して、交流の促進を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年5回、研究授業には、大学の教員に講師として来てもらい、専門的指導を受けている。 ・研修にも、大学の教員に講師としてもらい、専門的な話を聞くことができた。 ・平成27年度より教育ボランティアを募集し、大学より10名の学生が参加した。 ・毎年、初等部5年児童が、「鎌倉めだか」の話を大学の教員から聞いている。 ・毎年、大学の4年生が初等部の授業を参観し、その後、授業者からの講話を聞く「教職実践演習」を行っている。期間は、9月の1ヶ月間である。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業力向上」は、初等部教員にとって必要不可欠である。継続して大学の教員より専門的指導を受け、自己研鑽を積むことが大切である。 ・教育ボランティアの募集を早めに行う。または年度の途中参加も募集をかけるなど拡大していく。

4. キャリア教育（進路指導）

4-①	・学校の教職員全体として組織的にキャリア教育（進路指導）に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全体で、以下の視点を持ち、キャリア教育（進路指導）に取り組む。 ・夢や希望をもって努力し、意欲をもって学び続けることができる。 ・自らの自己課題の解決を進め、解決の成果をもとに新たな課題を設定して取り組もうとする。 ・思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考えを述べ、行動しようとする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験（工場見学等）を通して、自ら課題を見つけ、解決していく学び方を身につけさせ、新たな自分の生き方を見出すことができた。 ・道徳の授業を通して、思いやりや感謝の心、自らを律しつつ自己向上の精神を持たせることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の学校生活や教科などの授業、体験活動、行事を経験するなかで、その児童なりに学んだことや考えたことなどの積み重なりに着目することが大切である。今後、一人ひとり異なる積み重なりを意識しつつ、まだ言葉や文章になっていない子どもたちの気づきを言語化できるように支援していきたい。

4-②	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の適切な勤労観・職業観の形成や社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度を育成するための体系的・系統的な指導が行われているか。 ・職場体験や就業体験が適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階を考慮して、学年に応じて教科などとの連携を取りながら、キャリア教育の推進を図る。 ・キャリア教育に関する体験的な学習の充実を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科などの学習と連携して、社会的・職業的な観点の学習に取り組むことができた。 ・町たんけん、ダム見学、自動車工場見学、林業・酪農体験学習など、様々な施設や人と関わりながら、体験学習を進めることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が更に豊かな社会的・職業的な自立ができる視点が持てるような学習になるよう質的向上に取り組む。 ・勤労観・職業観の育成につながる体験的な学習の取組事例などの情報収集をし続ける。 ・児童が自分の将来像を考える機会や職業観を広げる機会を更に充実させる。

4-③	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の能力・適正等の理解のために必要な個人的資料や、進路情報が適切に収集され、活用されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の能力・適正を把握するために校内で実施した模試などの資料の活用を図る。 ・中学受験の希望校や進学先等の情報を整理し、次年度の進路指導などに活用する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年に応じた模試を行い、児童の能力・適正を把握し、個人面談などにおいて一人ひとりに応じた学習や進路指導に活用することができた。 ・児童が受験した学校や試験結果、進学先などの情報を収集・整理したり、卒業後の児童の様子などを聞いたりすることで、児童に合わせた進学指導に生かすことができた。 ・外部受験については男女ともに好調で、男子では37名中6名が栄光学園に合格するなど、入試困難校への合格も相当数出ている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進度と模試の内容等を合わせ、更に充実した進路指導につながるよう配慮する。 ・児童が受験した各中学校の試験や面接内容などの情報収集などについても必要に応じて収集、活用を検討する。

4-④	・進路相談（キャリア・カウンセリング）が適切に実施されているか。
取組目標	・個々の児童のニーズを把握し、支援の内容や方法について、本人や保護者と共通理解を図る。
取組内容 と成果	・主に受験における進路相談を行った。 ・児童一人ひとりに対して、その児童に合った進学校についての助言を行った。
今後の課題 と改善策	・進路相談が進学校の助言にとどまっているため、今後は更に先を見通した将来の職業等を踏まえた上での進路相談ができるように計画的に準備をしていきたい。

4-⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育（進路指導）のための施設設備が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・進路進学相談室を中学受験や将来の職業（夢）について考えることができる場として活用する。 ・児童が進路進学相談室を積極的に活用できるよう、場の工夫をする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導主任を中心に、進路進学指導室を個別重点指導室や補習室等にするなど、その有効活用の検討を図り、児童一人ひとりへ進路指導の充実に取り組んだ。 ・進路相談や自学自習のできるブース、中学受験案内、過去問題、様々な職業の紹介本を置き、児童が使用しやすいよう配置を工夫した。 ・6年生を中心に受験勉強や個々の進路相談で多くの利用があった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路相談としての機能をもっと充実していきたい。 ・高学年を中心に進路相談、キャリア教育の時間を確保し、積極的に活用していく。

5. 生徒指導

5-①	・学校の教職員全体で児童の状況についての理解を共有し、生徒指導に取り組む体制が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「品位ある児童」の育成を目指し、共通理解をもとに組織的に一貫性をもって指導・対応を行う。 ・児童指導と保健指導、安全指導の充実を図り、児童のだれもが「安全で安心」して学べる教育環境づくりを行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議や全体会を通し、児童指導の共通理解を図った。 ・年間9回の児童健全育成委員会を行った。その結果、教職員間でより共通理解を持ち児童指導を行えた。 ・「いじめ防止基本方針」の策定や「児童指導全体計画」の作成を通して、だれもが安心して豊かに生活できる学校づくりに努めた。
今後の課題 と改善策	・今後は、共通理解の深まりを組織として対応していく具体策を検討していく。

5-②	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導のための教育相談が計画的に行われているか。 ・スクールカウンセラー等との連携が効果的になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーとの連絡を定期的に行い、児童の健全な発育をサポートする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーと共同で児童の行動を把握し、実態に応じて適宜支援を行った。その結果、児童が自分の行動様式を認識できるようになり、落ち着いて行動できるようになった。 ・児童指導における相談機能と連携機能の強化に取り組んだ。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーと連絡を取り合う回数をより多くし、また初等部の実態を事前に連絡することで、より多くの児童に支援ができるようにする。

5-③	・児童の問題行動の状況を共有し、適切に対処できているか。
取組目標	・児童の問題行動の状況を共有し、適切な対処を行う。
取組内容 と成果	・職員会議や年間9回の児童健全育成委員会において、各クラスの状況を確認、共有した。その結果、問題の程度に応じて対処を行うことができた。 ・問題行動の防止と児童指導の充実に取り組み、児童一人ひとりに対してきめ細かな児童指導ができた。
今後の課題 と改善策	・クラス担任レベルでの対処が多く、組織的な対処を進めていく必要がある。 ・「いじめ防止基本方針」のもとに児童指導全体計画を作成し、今後ともいじめの防止の徹底に努めることが課題である。

5-④	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができる児童を育成するための指導を行っているか。 ・相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる児童を育成するための指導を行っているか。 ・社会の一員としての意識（公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど）を身に付けた児童を育成するための指導を行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や月訓、ルール・マナー指導を通して、自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができる児童の育成を行う。 ・社会の一員としての意識（公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど）を身に付けた児童の育成を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の自主・自発的で創造的な活動を生み出し、児童の自律的な自己指導能力の育成に取り組んだ。 ・自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができる児童を育成するため、学芸会等の行事において、また、月初めに学年・学級を中心に毎月の月訓等について考えさせ、学級・個人で目標設定をし、ふりかえりを行った。その結果、代表委員など働きかける児童も見られ、徐々にではあるが意識が高まってきている。 ・代表委員などを含め重点的に「挨拶」の指導を行った。その結果、自ら挨拶をする児童が増えた。 ・教職員全員による当番制での登下校時の指導については、大船駅（構内・階段・エスカレーター）、バスターミナル、学校前バス停、校門などで、全教職員が適切な指導を行った。その結果、大船方面のマナーは安定した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・公共心育成のため、下校時の上大岡方面のバス乗車マナー改善に努めていく。

6. 保健管理

6-①	<ul style="list-style-type: none"> ・法定の学校保健計画が作成され、適切に実施されているか。 ・児童の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談が適切に実施されているか。 ・日常の健康観察や、疾病予防、児童の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が適切に実施されているか。
取組目標	<p>【初等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画をもとに、月ごとの保健目標を各クラスで確認、実践し、保健行事、保健管理、保健指導、保健学習、組織活動を円滑に進め、改善を図る。
	<p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画を作成し、適切に実施する。 ・児童の健康管理、環境管理、保健指導を適切に実施する。 ・日常の健康観察や、疾病予防、児童の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断を適切に実施する。
取組内容 と成果	<p>【初等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月保健だよりを発行し、保健情報を伝えている。 ・毎週の予定表に記載し、校舎内にも掲示し児童が常に意識できるようにした。 ・毎日の健康観察を行い、学校生活が健康的に進められる状態かどうか、感染症の初期兆候がないか等の把握を行った。 ・保健センターや保健室との連携を図り、熱中症や感染症等の予防とともに、けがの発生件数の減少に取り組んだ。 ・熱中症対策に努めた。熱中症指数モニターにより初等部グラウンドの熱中症指数を測定し、危険度を色で示した。適切に水分を摂取するよう指導を行った。 ・各玄関や各教室に手指消毒用のアルコールを設置し、衛生管理に努めた。 ・おう吐物の処理マニュアル・処理用のセットを各階のトイレや特別教室に設置した。 ・健康診断の結果から各種受診の勧めの呼び掛けや、学校薬剤師による環境衛生検査も行った。 ・健康診断事前事後指導、う歯予防指導を学級単位で行った。2、3、6年生のう歯予防指導は、担任と養護教諭で行った。 ・「体育」「家庭」等学習の面からの保健的なアプローチを行った。 ・児童健全育成委員会でケガや疾病、感染症の流行等について対策の検討を行った。 ・「校外学習指導計画」や「宿泊体験学習実施計画」、「水泳指導計画」を作成するとともに、心肺蘇生研修や食アレルギー研修等、研修の充実に取り組み、安全保護義務の徹底を図ることができた。 ・「健康教育全体計画」を作成し、健やかなからだの育成に取り組んだ。
	<p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画に則り、保健活動を行った。その結果、健康診断・環境整備等を円滑に行うことができた。 ・担任やカウンセラーと密に連携を取り合うよう努めた。その結果、相談活動を適切

	<p>に実施することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童保健委員及び保健係の仕事として、毎日欠席調べを行っている。その結果、欠席状況を素早く把握し、感染症の予防と対策を取ることができた。 ・担任による保健指導として、健康診断の事前指導と事後指導を行っている。健康診断の目的や意義を知ること、生涯にわたり健康であることの大切さを学ぶことができた。
<p>今後の課題 と改善策</p>	<p>【初等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に即した保健指導を目指していく。 ・教職員が共通の認識を持って児童指導にあたることができるよう、内容について理解を深めていく。 ・教育課程の編成と関連付けながら、改訂学習指導要領に準拠した「健康教育全体計画」の作成を検討していく。
	<p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画について、評価・考察を繰り返すことで課題を明確化し、より実際に即した計画となるように進める。 ・担任、カウンセラーと連携を取り、心身の健康の保持に努めたい。

7. 安全管理

7-①	<ul style="list-style-type: none"> ・法定の学校安全計画が作成され、適切に実施されているか。 ・学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか。 ・校舎や通学路等の安全点検や教職員・児童の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、「安全」「安心」に生活できるよう、初等・中等教育支援室や警備室と連携を図り、防犯・防災に努める。 ・教室、廊下等の日々の安全点検に努める。 ・登下校の安全対策に努める。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・初等・中等教育支援室及び警備室との連携のもと、常に情報の共有化を図り、不審者侵入や緊急対応など、危機管理の徹底に取り組んだ。 ・日直当番による日々の施錠と安全点検の徹底に取り組むとともに、日直当番の見回りチェック表の見直しを図ることができた。 ・岩瀬キャンパス及び初等部内の防災訓練と避難訓練を計画に沿って実施し、防災への備えと安全への意識啓発を図ることができた。 ・防災備蓄庫の非常食・飲料水の保管管理及び補充に取り組んだ。 ・平成27年より月毎の校舎や教室環境についての安全点検票を作成し、キャンパス整備部門との連携のもとに、日々安全管理に努めることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練のバリエーションを増やし、より実践に近い訓練を行うことで、児童と教員の危機意識の向上を図る。 ・防災備品の見直しを年に一回図る。 ・幼稚部、中・高等部、初等・中等教育支援室と連携をより密にはかかっていく。 ・年一回の防犯訓練を定例化する。 ・登下校途中における防犯と防災についてもカリキュラムに位置付け、計画的に指導していく。 ・平成25年に作成した「困ったときのワンツースリーカード」の活用が課題である。

7-②	・学校防災計画等が作成され、適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・防火・防災計画を整備し、有事における安全確保のための基本行動を周知させる。 ・地区別集会や引き取り訓練等を通じて、各家庭にも災害時における基本行動の徹底を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部独自の避難訓練を2回、岩瀬キャンパス全体の防災訓練を2回、屋内消火栓取扱い訓練を1回行った。また教職員対象の救命救急講座を1回行った。 ・保護者対象の行事として地区別集会を実施し、防災に関する心構えや基本行動の周知が行われた。 ・防災訓練後の備蓄食糧食事体験等を通して、児童の災害時の食事に対する意識を高めた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな想定を思案し、児童や保護者を含めて有事に対応できるような訓練を今後も継続したい。 ・特定防火対象物のなかでも大規模建物に該当する岩瀬キャンパスにおいて、幼稚部や中・高等部と連携した安全行動や災害時用備蓄品の管理等を引き続き行っていきたい。

8. 組織運営

8-①	<ul style="list-style-type: none"> ・校長など管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、他の教職員から信頼を得ているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神のもと、年度初めには部長より「初等部経営全体計画」が提示され、講和をし、教職員の理解を求める。 ・「教育活動目標報告書」の作成にあたり、年間1・2回程度（5月と1月）の面談を行う。 ・毎週出される「週案」の職務記述を通して、教職員一人ひとりのキャリアステージの向上に努める。 ・日ごろの授業や研究・研修授業を参観し、授業力向上に向けてアドバイスをする。 ・教職員の健康管理に配慮する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会定例化の指示。また、必要に応じて学年主任会、教科主任会、教科外主任会などを行った。 ・教室やグラウンド、畑など校内の見回りをして、安全指導ができているかの確認を行った。 ・授業参観をして、クラスの児童の様子や整理整頓がなされているかを確認した。 ・勤務時間や休日出勤が適正に行われているか、教員一人ひとりの立場にたち、考える。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・常に、報告と連絡と相談の体制を作り、児童対応や保護者対応が適正に行われているか、教員より十分聞く必要がある。 ・退勤時間が遅くなりがちであるため、週1回はセブンアウトデイを推進する。

8-②	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌や主任制が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「継承」と「発展」、「充実」と「向上」、「組織化」と「効率化」をテーマにPDCAサイクルの確立に努め、学校評価の充実に取り組む。 ・部長と次長、教務主任と庶務主任、進路進学主任、入試広報主任、生活指導主任、研究研修主任からなる運営推進会議を原則週1回程度実施し、円滑な運営と経営に取り組む。 ・企画会に替わり、運営推進会議のメンバーに学年主任を加えた拡大運営推進委員会を設け、両組織の連動のもとに円滑な学校経営と運営にあたる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任会、教科主任会、教科外指導の主任会などを年間2回ほど、開催した。これにより、組織の活性化と教育活動の充実を図ることができた。また、学年主任及び教科主任に対し、基幹教諭及び中堅教諭としての自覚の形成を図ることができた。 ・研究研修主任を設置した。研究と研修部門を統合し、教科指導力と児童指導力を柱に、学校力向上の取組を組織に展開していく。 ・教育課程運営委員会の中に「評価」担当を位置付け、「指導と評価（評定を含む）の一体化」のもとに、新学習指導要領準拠の教育課程の編成ができるようにした。 ・児童健全育成委員会の「全体会」を年間9回行い、児童指導についての情報の共有化と指導の一体化に努めた。 ・研究研修推進委員会と教育課程運営委員会と児童健全育成委員会を三つの委員会を三部会とした。必ず教職員はどこかに所属し、同じ時間に会議を行い、共有の話題で時間を持つことができた。 ・各学年に「学年会計」担当を置き、学年主任と共に、学校行事や学年費などに係わる稟議及び会計執行を迅速かつ適正に努めた。 ・校務分掌の担当者は、係分担の分散と集中の視点から、担当責任者と主たる担当者のみの標記にとどめた。責任体制はできている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・担当責任者に対して、例年同様のみならず、常に新しい活動の創出を心がけ、必要な場合には主たる担当者以外の人的配置も含めて、計画的かつ創造的に校務分掌を推進するよう助言している。 ・教員が、学校行事、教材など教育活動のなかでかかわる経理関係を十分に熟知しておくことが必要である。 ・平成27年度より発足させた学年主任会と教科主任会の機能をさらに高めていく。

8-③	・職員会議等が学校運営において有効に機能しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議の前に、必ず拡大運営推進委員会（平成26年度までは企画会）を行う。職員会議の議題や早急に検討しなければならない重要事項について話し合う機関である。 ・定例として毎月1回（月末）、長期的展望のもと、特に翌月の教育活動を視野に入れて、職員会議を行う。
取組内容 と成果	<p>「拡大運営推進委員会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例の月1回、臨時的な会議3回を含め、計15回開催された。参加メンバーは、部長、次長、校務の基幹主任、学年主任で組織運営される。必要に応じて、校務の担当者も出席する。 ・検討事項は、行事、入試広報、教育課程、児童の様子など、多岐にわたった。これらの検討・決定事項を職員会議の議題・伝達事項として、教職員に共通理解を図った。 <p>「職員会議」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回（月末）、16：00～17：00の約1時間の職員会議を開催した。 ・例年と同様、職員会議の議案は事前に拡大運営推進委員会で検討された後、議案として提出することを原則とした。 ・初等部職員の他、初等・中等教育支援室、保健室、生徒相談室からも、担当職員が出席した。 ・職員会議の案件は、事前に検討されているため精査された議案として提出することができた。案件は報告、連絡という形で行い、職員に周知徹底させることに重点をおいた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大運営推進委員会が、校務分掌のなかで主軸となる働きをする必要がある。校務の各主任がおり、さらには各種委員会ともつながっていけるよう組織全体の活性化を図る原動力でなければならない。 ・初等部全体の教育活動の充実や構想を立てる機関であるべきである。 ・長期的、中期的、短期的懸案事項に分け、精査していく必要がある。 ・職員会議資料の配付が、会議直前となるが多かった。少なくとも1日前に配付できるように準備していきたい。

8-④	<ul style="list-style-type: none"> 各種文書や個人情報等の学校が保有する情報が適切に管理され、また、情報の取扱方針が教職員に周知されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 「鎌倉女子大学初等部文書管理規定」に基づき、文書を適切に管理する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 初等部が扱う情報・文書は、①児童の個人情報、②教職員の個人情報、③授業等の教育活動にかかわる情報、④金銭の出納、等学校運営にかかわる情報に分けることができる。『鎌倉女子大学初等部文書管理規程』に原則的に基づき、文書の管理を行った。 個人情報の電子化が進みつつあるなかで、そのデータが持ち出せないような仕組みづくりを、情報教育センターの協力を得て進めてきた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 管理文書の適切な管理（期間どおりに保管、廃棄）を行う。 文書管理規定どおりに実施されているかの確認作業を実施する。

9. 研修（資質向上の取組）

9-①	・授業研究を全教員が行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に全校的に取り組んでいるか。
取組目標	・研究主題を「認め合い、学び合う授業の創造」とし、本主題に迫るために、年間6回の研究授業と4回の研究全体会を通して、授業改善を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回校内研究全体会（4月）では、研究の進め方（10の提案）、研究主題討議、研修の進め方・計画について話し合った。 ・第1回校内研究授業（5月）では、5年体育科、器械運動「マット運動」について、アイパッドを活用したトリオ学習、映像（大型テレビ）を活用しためあて・ふり返りの支援、シンクロ・エンジョイタイムの3つの視点で、研究授業を行った。講師として、元大学教員に助言を得た。 ・第2回校内研究授業（6月）では、4年国語科「一つの花」について、個人→グループ学習→全体学習の子どもたちの話し合いの仕方、学習の場（鼎談・学級会形式の授業）・教員の言葉かけ・支援の仕方、課題（問題）解決のための読み取りの仕方（国語科の観点）の3つの視点で、研究授業を行った。講師として、大学教育学部教員に助言を得た。 ・第2回校内研究全体会（7月）では、5年研究授業のまとめと報告、4年研究授業のまとめと報告、研究の進め方討議・確認を行った。 ・第3回校内研究授業（9月）では、3年算数科「三角形」二等辺三角形と正三角形について、書画カメラの使用、発表後の教師の問いかけの2つの視点で研究授業を行った。講師として、大学教育学部教員に助言を得た。 ・第4回校内研究授業（10月）では、6年道徳「生命尊重」について、「キャンプの中の診療所」を題材にしたモラルジレンマの学習、心の動きカードの活用、生物・生命概念の事前調査、命の学習の事前アンケートによる児童理解の3つの視点で研究授業を行った。講師として、大学児童学部教員及び短期大学部教員に助言を得た。 ・第5回校内研究授業（11月）では、1年算数科「たしざん」について、導入時のパワーポイントの映像 実物投影機を使った全体の学び合い、ペア→全体の学び合いタイム、ティーム・ティーチングの役割の3つの視点で、研究授業を行った。講師として、大学教育学部教員に助言を得た。 ・第3回校内研究全体会（12月）では、3年研究授業のまとめと報告、6年研究授業のまとめと報告、1年研究授業のまとめと報告、他の学年の研究中間報告を行った。 ・第6回校内研究授業（1月）では、2年図工「〇〇なせかいをつくろう」について、題材・材料、子どもたちが考えたテーマ、アクティブ・ラーニングの方法を取り入れた学習の進め方の3つの視点で、研究授業を行った。 ・第4回校内研究全体会（2月）では、2年研究授業のまとめと報告、今年度の研究の成果と課題、今年度の研修の成果と課題について話し合った。 ・いずれの校内研究授業も、視点を明確にし、活発な研究協議会ができた。また、研究授業後のまとめの発表会ができたことも成果である。 ・研究研修推進委員会の企画運営で、大学より講師を招請し、6回の全体授業研究会と2回の研修会を実施できた。
今後の課題	・平成27年度の個人研究授業については、3人だけであったので、次年度は、事前に

と改善策	予定を知らせ、事後研修会の持ち方を工夫する。各年の研究授業者の記録を示す等、検討していく。
------	---

9-②	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の課題が適切に設定され、実施されているか。 ・教職員が積極的に校内研修・校外研修に参加しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・これから教師として豊かに伸びていくために、全員で学び合える研修を増やす。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・全員研修では、木曜日を中心に4時から（必要があれば随時）、入試研修・通知表研修（PC）・評価研修・教科研修・実技研修（体育・理科、図工、音楽、家庭科）・講演会・研修報告会などを行った。 ・ICT研修（4月）では、音響映像システムを扱う、東亜エンジニアリングの方を講師に迎え、平成27年度より導入されたプロジェクター、書画カメラの使い方を学んだ。 ・入試研修（4月）「私学の教職員として広報の考え方・在り方について」では、児童募集広報を行う、バレクセルの方を講師に迎え、平成27年度の小学校受験マーケット、他校の教育、入試改革、募集広報の戦略、各幼児教室からみた受験生、保護者の属性、志向の変化、来年度の予測等を具体的な資料をもとに本校での広報の生かし方を学んだ。 ・安全危機管理研修（4月）では、初等部長が情報管理の仕方、保護者対応、電話対応の仕方について講話した。 ・体育実技研修（4月）では、初等部教員が、集団行動、体ほぐし運動、多様な動きをつくる運動、アルティメットについて説明し、実際に体を動かして、指導のポイントを学んだ。 ・救命講習（6月）では、大船消防署の方を講師に迎え、プールでおぼれた子の救命の仕方について、実技を通して学んだ。 ・通知表研修1（6月）では、初等部教員が、出退勤時の情報危機管理、新通知表の方向性について説明を行った。 ・通知表研修2で（6月）は、初等部教員が、新通知表の入力の仕方、留意点について説明を行った。 ・講演会（7月）「国語科の授業創り」では、大学児童学部教員を講師に迎え、国語科での授業力、授業改善の具体策を学んだ。 ・夏期研修報告会（8月）では、ほぼ全教員が、夏季に学んだことを5～10分にまとめ、自由に紹介しあった。 ・評価研修（10月）では、平成27年度より通知表が電算化されたため、1学期の通知表の学年の実態を明らかにした。評価基準作りの大切さが明確になった。 ・講演会（12月）「発達障害の理解とその対応」では、大学児童学部教員を講師に迎え、発達障害の分類、ASD、ADHD、問題行動への対応などを学んだ。 ・実技研修（2月）「教室で使える簡単なゲーム」・討論会「私が考えるアクティブ・ラーニング」では、前半は、初等部教員が講師になり、教室で使える簡単なゲームを紹介した。後半は、1月の研究授業で話題になった「アクティブ・ラーニング」について意見交換を行った。 ・平成27年より配置された研究研修主任の下で、種々の研修が実施できた。 ・人材育成・教師力の向上及び学校安全・健康衛生、募集力の向上とともに、危機管理や安全管理の視点からも研修に取り組んだ。 ・4月に8コマの初任者研修を実施し、経験年数5年未満の教員を対象に日々修養と研鑽の意識啓発に努めた。

<p>今後の課題 と改善策</p>	<p>・校外研修の充実はまだ十分ではないため、研修に関する情報を適切に伝達し、研修した人の報告会、レポート等の情報交換する機会をもつ。</p>
-----------------------	---

9-③	<ul style="list-style-type: none"> ・校長等の管理職が定期的に授業観察を行い、教員に対して適切な指導・助言をしているか。 ・教員の指導の状況を的確に把握するとともに、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての「資質の向上」をめざした教員研修を計画的に実施する。 ・学年会定例化の推進を図る。学年会は学年主任を中心とした人材育成機能の一端を担う機関とする。 ・校内研究の活性化を図り、児童理解と授業力の向上に努める。 ・日ごろの教室の見回り、授業参観を実施する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会を週1回以上とし、会議録をつけ、保管している。 ・4月に新任の教員に対する「初任者研修」を実施した。 ・着任と経験年数5年未満の教員を対象に「メンターチーム」を編成し、教師力の向上に取り組んだ。 ・「教育活動目標報告書」の活用を図り、年間2回程度の面談を行った。 ・週案への職務記述を通して、教員一人ひとりのキャリアステージの向上のためのアドバイスをを行った。 ・大学との連携のもと、研究研修推進委員会による校内研究及び教員研修を通して、教師力の向上に取り組んだ。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・入試広報にもつながる、教員としての「資質の向上」は、必要不可欠の課題であり、今後も魅力ある「教員集団」の育成に努めていく。 ・「教育活動目標報告書」を活用し、目標管理手法による人材育成の充実に努める。 ・高学年において安定した学級経営ができる学級担任の育成が急務であり、外部からの採用と内部からの育成を検討する。

10. 保護者・地域社会等との連携

10-①	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が学校運営に参画し、協力できる体制を整えているか。 ・教育ボランティアを集めるシステムができているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事などにおいて保護者ボランティアを集め、積極的に協力してもらう体制づくりを行う。 ・保護者が初等部の教育についてより理解を深めていただけるように努める。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会・みどり祭・学芸会・音楽会といった年間行事、また、学校紹介において、保護者に協力を依頼し、受付等の仕事を担当していただくことができた。 ・毎月「見守りボランティア」を募集し、有志の保護者の方々に下校時の児童の安全確認を担当していただくことができた。 ・平成27年度はみどり祭が幼稚部、初等部のみの開催となったため、行事の片づけを初めて保護者に正式に依頼し、教職員と共に物品の片づけを行った。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部の教育活動、特に学校行事に関しては、保護者の協力により円滑に実施できている面もある。 ・協力的な保護者も多いが、一部の保護者に負担がかかっているところもある。特に「見守りボランティア」については、協力いただいている保護者が限られている面もあるため、改善策を考えていきたい。 ・平成27年度に実施したみどり祭の保護者ボランティアや、学校紹介における在校生の保護者体験談など、新たな形での取り組みに積極的な保護者も見られた。 ・今後は、働きかけを工夫することにより、より多くの保護者に初等部の教育を理解していただき、学校運営に参画できる体制づくりを図っていきたい。

10-②	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開を定期的実施しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に学校を公開し、保護者、地域の方々に初等部を理解していただけるような体制づくりをする。 ・保護者、地域の方々との連携を深める。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の授業参観と年間4回の保護者会を実施している。 ・児童募集に関連し、年間2回～3回の学校紹介を行い、初等部に興味のある方に施設や授業を公開している。 ・運動会、みどり祭、学芸会、音楽会を公開行事としている。 ・『親子deクッキング』を実施している。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介において授業を公開したり、行事を公開行事にしたりするなどして学校公開を定期的に行っている。しかし、これらの学校公開はあくまでも、初等部の関係者に限られている。 ・みどり祭などは地域の方々にも公開を呼びかけているが、あまり広がりは見られない。その一つの原因として考えられるのが、警備面・安全面に関することである。学校公開を定期的に行い、多くの方々に初等部を訪れてもらうためには、この点をいかにクリアーしていくかが検討課題である。 ・学校周辺の方々との連携を図りながら、学校を公開し、より多くの方々に初等部のことを知ってもらうことが今後は大切になってくる。

10-③	・児童・保護者の学校への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。
取組目標	・教員を対象とした内部評価とともに、児童保護者を含む関係者評価を実施し、学校経営と運営についてのPDCAサイクルの確立と普段の見直しに努める。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートを3学期に実施した。保護者の方が満足している教育活動と、そうでない活動が明確になった。評価が低かったのは、みどり祭に関連する設問であった。 ・学校生活アンケートを1学期と3学期に実施した。児童が健やかに充実した学校生活を過ごせることを目標に、学校における児童の生活実態をつかむことができた。また、緊急時の対応及び登校指導の資料として役立った。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの結果を、平成28年度の教育活動の充実・見直しに生かしていく。 ・アンケート結果について、教員が検討する時間を確保していく必要がある。 ・学校生活アンケートでは、アンケートの文言があいまいになってしまい、児童が答えにくい状況があったので改善していく。

10-④	・教育相談体制を整備し、児童・保護者から寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応しているか。
取組目標	・年間の保護者会、前・後期面談を通して保護者からの要望を把握し、教育活動に反映させる。
取組内容 と成果	・保護者会後での意見や学校評価アンケートをもとに、保護者からの要望を定期的に収集し、教育活動に適宜反映させた。
今後の課題 と改善策	・保護者の意見に対応するだけでなく、事前に保護者の要望を予測し、事前準備を行っていく必要がある。

10-⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便りや学級便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろの教育活動を理解してもらうため、学校全体、各学年ごとに便りを定期的に発行する。 ・遠足や宿泊体験学習の行事などは、詳細な活動内容や費用を書面で知らせる。 ・行事（入学式、運動会、みどり祭、学芸会、音楽会、卒業式など）ごとにお知らせのプリントを発行する。 ・保護者会を年4回行う。 ・教材など、費用を要する場合、学年ごとに知らせる。 ・緊急性を要する場合は、はやぶさメール（学校メール）で知らせる。 ・個人面談（年2回）、教育相談を設ける。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回、初等部だより（部長のコメント、行事予定など）を発行した。 ・各学年、必要性に応じて、学年だよりを発行した。発行部数は、学年に応じて違いはある。 ・緊急の場合（交通機関の乱れ、災害のため登校や下校を変更する場合は、はやぶさメール（学校メール）で、伝達した。 ・保護者会は、三部構成（①全体会、②学年会、③クラス会）になっている。教員が保護者に情報を直接的に話す最適な機会となっている。 ・個人を対象にしたものは、個人面談（5月―全員、1月―希望者）を行っている。場合によっては必要性に応じて臨時の教育相談も行っている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部便りの内容を質・量的な面から拡大する。 ・保護者会の内容の創意工夫を行う。他機関からの講師を招聘して講演会を開催する。 ・行事などのお知らせは、早めに作成し、保護者に周知徹底させる必要がある。

10-⑥	・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。
取組目標	・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源を活用する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・3～5学年では学校行事として鎌倉めぐりを行い、建長寺や高德院といった鎌倉の寺社を訪ね、自然と地域文化にふれるなかで「知・特・体」の能力を育むことができた。 ・4年生は社会科、6年生は図工科において鎌倉彫を体験し、伝統文化に触れながら彫刻の技能を学ぶことができた。 ・5年生の理科では、本学大学が保護している鎌倉固有の“鎌倉メダカ”を飼育する活動を通して、生物の発生の学習を行うことができた。 ・6年生は卒業座禅において鶴見区の總持寺から僧侶の方をお招きし、坐禅の仕方と心構えを教わった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然に触れる機会を増やす必要がある。教育課程運営委員会や各教科担当で検討し、生活科や理科、総合的な学習の時間において、鎌倉の自然に実際に触れる機会を増やすよう努める。 ・農園の管理や年中行事、生活科・総合的な学習の時間に関して、各教科主任や各学年において地域の人材の活用も積極的に行っていくよう努める。 ・地域の伝統行事にかかわる機会を作る必要がある。平成28年度は、初等部の年間計画を立てる上で地域の行事も考慮していくよう努める。

10-⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習生の受入れ体制が十分に整っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習生の受け入れを通して、次世代の学校教育に貢献・寄与するとともに、指導担当教諭及び関係教諭の教科指導力と生活指導力、教材研究力をよりいっそう高める機会とする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度は教育実習生の受け入れはなかったが、例年本学の学生又は初等部の卒業生を対象に、2名程度の教育実習生を受け入れてきている。 ・「初等部教育実習計画」（B4版8頁）を作成し、在籍大学の目的に沿った実習の実現に努めてきている。 ・授業参観及び授業研究並びに前日経営を通して、教科指導と生活指導の基本とともに、教材研究の仕方が身に付けられるように取り組んでいる。 ・指導担当教諭と児童委員会活動やクラブ活動はもとより、諸会議にも参加し、広く小学校教諭の職務についての理解を図っている。 ・既定の実習期間で在籍大学の目的に沿った実習が実現できている。 ・教科指導や生活指導の基本、教材研究の仕方についての理解にとどまらず、小学校教育の意義や教職に従事する者の心構えについても体験的に理解を図ることができている。 ・指導的役割を果たす過程で、指導担当教諭の教師力や学級経営力の向上にもつなげることができている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習生にとっても、また初等部にとっても実効性のある教育実習とするために、指導担当教諭の養成について検討していく。 ・指導担当教諭の負担感を軽減するために、学級受入れから学年受入れにシフトしていくことが考えられる。 ・指導案の書き方や勤務・服務姿勢など、在籍大学での実習前の授業（指導）の在り方が課題である。

11. 入試・広報活動（情報提供）

11-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動についての説明会を実施したり、学校案内を配付したり、ホームページを活用するなど、学校に関する様々な情報が、多様な媒体を用いて分かり易く、かつ適切な分量で提供されているか。 ・ホームページに校長名、学校の所在地、連絡先、学級数、児童数、教育課程などの基本的な情報が提供され、情報が定期的に更新されているか。 ・児童等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・一人でも多くの方に本学の良さを知っていただくため、情報フェアや学校紹介等の持ち方や取り組みを検討する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介、私立小学校フォーラム、私立小学校フェア、私立小学校湘南フェスタ等に参加した。公開授業や模擬授業などに取り組み、初等部の教育について広めてきた。 ・2度のオープンスクールを実施した。初等部の教育、施設公開を目的、初等部の教諭との交流を目指した内容で行い、多くの園児が参加した。 ・夏休みに幼稚園や幼児塾などを訪問し、学校の広報に努めた。 ・ホームページを定期的に更新し、情報を公開してきた。 ・幼児教室への挨拶まわりを拡大させるとともに、1年生と2年生の出身園への学校案内と行事案内の送付に取り組んだ。 ・学校説明会の実施回数や曜日、持ち方について検討を加え、新たな学校説明会の創造に取り組んだ。 ・全教員による今一つ丁寧な指導、今一步誠実な保護者対応を通して、在籍児童家庭の入学推薦意識の高揚に取り組んだ。 ・幼児教室及び幼稚園への直接訪問件数を50台に伸ばすことができた。 ・「全教職員による入試広報活動」の意識啓発が浸透してきた。 ・湘英会での部長講演会が新規で開催できた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介やオープンスクール参加者が出願・受験へとつながる工夫を行う。 ・教師の児童指導力、教師力の向上を図る。 ・放課後児童育成GK（仮称）プランを具体化していく。 ・初等部外の広報部門との連携を図り、広報活動の充実にいっそう努める。

12. 教育環境整備

12-①	・多様な学習内容・学習形態などに対応した施設・設備の整備が行われ、活用等が適切に図られているか。
取組目標	・子どもたちが充実した学習ができるよう、豊かな教育環境を整備する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室、図工室、情報教育実習室、第1音楽室、第2音楽室、理科室、家庭教室（調理室）、多目的学習室などの各種特別教室や室内プール、松本講堂のほか、初等部専用グラウンドも整備され、また、校内にたんぼ等の農園もあり、緑に囲まれた明るい教育環境が整っている。 ・平成27年度に体育倉庫が設置され、体育備品を格納するスペースが確保された。これまで外に出してあった体育備品を一か所に収納することができるようになり、雨風による備品の老朽化を防ぐとともに、保管上管理がしやすくなった。 ・平成27年度末に設置されたプロジェクターを活用し、書画カメラで子どもの作品や学習資料などを映し出して全員で見たり、パソコンと接続して動画や資料などを手軽に映し出したりすることができるようになった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちにとって、より豊かな教育環境となるよう、今後も引き続き施設・設備の充実と改善を行う。合わせてそれらの設備を有効に使うための教材の充実も図っていきたい。 ・図書室の蔵書を格納するスペースがまだ不足している。現在の閉架図書を保管している場所は行事備品を保管している場所と同じになっており、空調整備が不十分な倉庫であるため図書の保管には適していない。蔵書を保管する場所や方法が今後の課題である。

12-②	・施設・設備の安全・維持管理のための点検及び整備が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の安全を確保する ・施設・設備の機能を維持する。 ・より快適な環境で児童が学校生活を送れるよう環境整備を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検により施設・設備の状況を把握し、不具合に対処した。 ・建物簡易診断を受診した。 ・西館の東西両階段において照度向上のため、照明器具の交換を行った。 ・職員の日常作業の他、清掃・樹木管理、プールの保守点検等業者への委託による環境整備・安全確保等も行っている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検による施設設備の安全管理を継続する。 ・建物診断の結果から今後の保守計画を立て、実施する。 ・床・壁等内装の改修を行う必要がある。 ・空調設備の更新が必要である。 ・外壁の汚れが目立つようになっており、屋上を含め改修工事を行う必要がある。 ・トイレの洋式化等改修工事を行う計画を立案して行く必要がある。 ・委託業務の内容等が実状に合わせたものになるよう見直しを図る。

12-③	・教材・教具・図書の整備や学校教育の情報化が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業・特別活動が円滑に行われるよう、教材・教具の整備・点検を行う。 ・児童の豊かな読書活動を支えるため、図書の充実、図書室の整備を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・月に一度、教室点検を行い、担当者でとりまとめた。 ・学期末、学年末に倉庫の整理を行い、老朽化したもの・不要になったものを処分した。 ・図書室に新しい検索閲覧システムを導入した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末、年度末に整理はするものの、倉庫内に収まりきらない物品や、責任者不明若しくは退職の物品が多くあるため、責任者を明確にすること、更に細かく、定期的に整備する必要がある。 ・図書室蔵書も教具同様、設置しきれていない。図書室倉庫も宿泊関係やクラブ関係の物品であふれているため、改めて整理・処分が必要である。

13. 事務支援体制

13-①	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部の教育活動における支援が適切に行われているか。 ・初等部の募集力向上における支援が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常業務における事務支援体制全体の強化を図る。 ・初等部入試・広報担当教員の業務補佐と支援の充実を図る。 ・募集人員充足に向けた①学校案内制作、②学校説明会運営、③広報媒体等への交渉の活動を目標とした。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口での来校者や電話での各種問合せについては、「窓口は学園の顔」という言葉を常に意識し、適切かつ丁寧な対応に努めた。 ・昼食時におけるカフェテラスでの弁当・パン注文の取扱いが始まり、総務部や担当者とも連携し軌道に乗せることができた。 ・これまで経理部で作成していた業者支払いの勘定伝票や、扱いを厳格化するために預り金についての新たな帳票を初等・中等教育支援室で作成するようになり、事務処理の合理化・厳格化に貢献している。 ・学校案内制作の支援を行った。パンフレット制作会社へのアドバイスと、初等部入試・広報担当教員のパイプ役として制作支援を行った。同時に制作費用の削減に向けた交渉を実施した。パンフレットの費用対効果が向上した。 ・他校の募集要項を多角的に調査・比較した。それらを集積データとし、初等部の総合的な募集力向上に寄与した。 ・広報ツールの制作支援を行った。広告備品等の制作費の削減に向けた交渉を積極的に行った。これにより広報予算の有効活用が図られた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も外部との対応に関して、引き続き適切かつ丁寧な対応を心掛けたい。 ・預り金の厳格化については、経理部や総務部、各部と連携し、引き続き対応を図りたい。 ・初等部の募集定員の充足に向け、入試・広報担当教員の支援活動の充実を図る。 ・計画的な募集活動の補佐に加え、教育活動を効果的に伝える学校説明会の運営の支援等を行い、志願者数の増加を図る。 ・幼児対象塾に対する告知の増強を図る。塾講師へ初等部の優位性を強く発信する。 ・幼稚部・初等部間の進学接続支援の増強を図る。

14. 自己点検・評価

14-①	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価が年に1回以上定期的に実施されているか。 ・全教職員が評価に関与しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年に一度、学校全体で一年間の教育活動を振り返り、次年度更に充実した教育活動が行われるよう、それぞれの校務分掌に沿って自己評価をする。 ・全教職員が自己点検に関われるよう担当の割り振りをする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌に沿って、担当を割り振り一年間の教育活動の自己評価を行った。 ・それぞれの担当が自己評価をすることで、次年度に向けての教育活動に生かすことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌に沿って割り振りを行うため、一人の教員が多く的事项を担当することが必然的に出てくる。次年度はそのことを改善するため、多く的事项を担当する教員に何人かの教員をつけ、共同で評価を行っていくような工夫をしたい。

14-②	・自己評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか。
取組目標	・指導と評価の一体化を図るとともに、行事・授業評価を含む学校評価を2月に実施し、保護者と教職員の「連携」と「協働」のもと、「信頼」を構築していく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末（2月）に学校評価を実施し、結果を保護者会で報告した。 ・教育活動のなかで、学校評価が低いのは、進路・進学指導、宿題の量、英語講習についてである。 ・学校安全、安全指導については、高い満足度と達成度が得られた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価で満足度の低い項目、コメントの多かった項目—講習と英語については、授業改善をしていく必要がある。宿題の量については、学年におろし、検討する。 ・講習のあり方については、担当者と部長、次長での話し合いを随時行っている。 ・児童が、講習ごとに、毎回、学習した内容を書いていき、記録とする講習日誌を作成する。